

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 30 年 10 月 25 日

所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	岡桃子

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)	マレーシア コタキナバル スカウ
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)	第7回生物多様性国際ワークショップ
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)	平成 30 年 10 月 15 日 ~ 平成 30 年 10 月 21 日 (7日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)	University Malaysia Sabah

5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果: 長さ自由)

写真 (必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。

旅程

- 10/15 関西空港出発, 移動, コタキナバルへ
- 10/16 Sabah 大学にてワークショップ (1日目), ポスター発表
- 10/17 Sabah 農科大学にてワークショップ (2日目)
- 10/18 スカウへ移動, リバークルーズ
- 10/19 植林体験, リバークルーズ
- 10/20 コタキナバルへ移動
- 10/21 帰国

前回インドネシアで行われた多様性ワークショップに引き続き今年も本ワークショップに参加させていただいた。今年は口頭及びポスター発表ワークショップは Sabah 大学, エクスカーションはスカウで行われた。

ワークショップは以下の3つのセッションに沿って行われた。

- ① Human-Animal Conflicts
- ② Animal Ecology, Behaviour and Conservation
- ③ Connection between Wild and Captivity

マレーシアに生息する動物種を中心に、世界各国での野生動物との軋轢, 保護の研究報告を聞くことができた。私自身は飼育下での研究を行っているため、野生動物との関わりの実例を聞くことはとても新鮮であった。私はポスター発表を行い、その際多くのコメント, 質問をいただいた。ぜひ今後の研究に活かしていきたい。



写真1
ポスター発表



写真2
ワークショップ参加者での集合写真

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

日程の後半ではスカウにて様々なエクスカージョンを体験した。プランテーションにより森林伐採が進んだ結果、オラウータンをはじめ多くの動物種が減少している問題に立ち向かう NGO の講義を拝聴したのち、実際に行っている植林活動を体験させていただいた。この植林活動は現地の女性グループによって支えられている。自分で体験してみると、きつい日差しの中草刈や植林を行うのは、話に聞く以上にとっても重労働だと感じた。改めて一度失われた自然を取り戻す大変さを思い知った。

また数回行ったリバークルーズではテングザルをはじめ、カニクイザルやスローロリス、ワニ等多くの生き物たちを観察することができた。野生動物の採食や休息行動を近くで観察するというとても貴重な体験をすることができた。



写真 3 植林体験



写真 4 リバークルーズ



写真 5
スローロリス：夜のリバークルーズにて

6. その他 (特記事項など)

本出張において非常に多くの方にお世話になりました。野生動物研究センター 幸島司郎教授をはじめとする同行者の皆様に深く感謝申し上げます。